

変更契約調書

工事名	シュワブ (H26) ケーソン新設工事 (1工区)	工事場所	名護市キャンプ・シュワブ沿岸域	種別	しゅんせつ	工期	270128 ~ 290930
契約の相手方	名称等	シュワブ (H26) ケーソン新設工事 (1工区) 五洋建設・清水建設・みらい建設工業建設共同企業体		住所	沖縄県那覇市久茂地3-21-1・國場ビル8F		
契約金額	¥ 14,153,400,000		工事概要	本工事は、普天間飛行場代替施設建設事業における施設の整備に係る土木工事一式を行うものである。			
契約 変更	回	変更契約年月日	増減額	変更後金額	変更後の工期	変更理由	
	1	270330	6,560,784,000	20,714,184,000		設計精査	
	2	290203	0			計画調整	
	3	290327	-2,119,392,000	18,594,792,000	300331	対外調整	
	4	290728	40,780,800	18,635,572,800		現場精査	
	5	300105				繰越に伴う年割変更	
	6	300228	0		310331	計画調整	
	7	301225				繰越に伴う年割変更	
	8						
	9						
10							

変更契約調書

工事名	シュワブ (H29) 埋立工事 (3工区)	工事場所	名護市キャンプ・シュワブ沿岸域	種別	土木一式	工期	300303 ~ 320331
契約の相手方	名称等	シュワブ (H29) 埋立工事大林組・東洋建設・屋部土建建設共同企業体		住所	福岡県福岡市博多区下川端町9番12号福岡武田ビル内		
契約金額	¥ 6,933,600,000		工事概要	本工事は、普天間飛行場代替施設建設事業における埋立に係る土木工事を行うものである。			
契約 変更	変更契約年月日	増減額	変更後金額	変更後の工期	変更理由		
	300329	279,504,000	7,213,104,000		計画調整		
	301203	2,960,712,000	10,173,816,000	320731	計画調整		
	310121			320930	計画調整		

普天間飛行場の移設に関する経費に対する支出済額

項目		諸経費の内訳	平成18年度から 平成30年度（見込み） までの支出済額
環境影響評価等に要する経費		約100億円	約213億円
埋立工事に要する経費	仮設工事	約207億円	約856億円
	護岸工事	約610億円	
	埋立工事	約1,393億円	
	付帯工事	約100億円	
飛行場施設整備に要する経費		約500億円	—
キャンプシュワブ再編成工事に要する経費		約600億円	約402億円
合計		約3,500億円	約1,471億円

※計数は、四捨五入によっているのて符合しないことがある。

※平成30年度の支出済額については、現在（令和1年5月）、出納整理期間中であることから見込額であり、今後変動する可能性がある。

普天間飛行場の移設に関する事業の予算額及び支出済額について

(単位:億円)

年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
予算額	< 36 >	< 85 >	< 89 >	< 288 >	< 13 >	< 63 >	< 83 >
支出済額	10	13	48	94	53	16	37
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度
予算額	< 41 >	< 842 >	< 1,734 >	< 1,706 >	< 1,703 >	< 1,041 >	< 706 >
支出済額	57	278	243	594	535	809	609
	34	203	104	175	507	—	—

1 計数は、四捨五入によっているので符合しないことがある。

2 計数は、歳出ベース(一般物件費+歳出化経費)であり、< >内は契約ベースである。

3 計数は、事業に附帯する事務費は含まない。

4 平成18年度は補正額、平成19、平成25、平成27年度は当初予算+補正追加額、平成26年度は当初予算+補正追加額+予備費等、平成20～平成24、平成28、平成29、平成30、令和1年度は当初予算。

5 平成30年度の支出済額については、現在(令和1年5月)、出納整理期間中であることから未計上。

6 令和1年度の支出済額については、執行中であることから未計上。

好データつまみ食い

辺野古 軟弱地盤

「非常に固い」根拠揺らぐ

埋め立て予定海域で、海面下九十センチに達する軟弱地盤の存在が明らかになった沖縄・辺野古の米軍新基地建設。七十センチまでの地盤改良で「施工可能」とする防衛省の根拠が揺らいでいる。深さ九十センチの地点の強度データを問わず、数百センチ離れた地点の調査から類推し、七十センチより深い地盤は「非常に固い」と判断していたためだ。都合のいいデータをつまみ食いしたような調査に、野党や専門家から疑念の声が上がる。(中沢誠) 一面参照

核心

■矛盾する数値

二十七日の参院予算委員会。「N値は七十センチで三・六六、八十センチで八・九八、九十センチで六・四四……」。防衛省が明らかにした、海面下九十センチのB27地点の地盤強度は、「非常に固い」という基準値の一五を大きく下回るものだった。

「深さ七十センチまで地盤改良すれば大丈夫」という防衛省の判断とは矛盾するデータに、共産党の井上哲士

参院議員はかみついた。「非常に固いと言ったが、今の数字、全部下ですよ。違つじゃないか」

B27地点で行った「コーン貫入試験」は、センサーが付いた棒を刺して地盤を調べる手法。試験データから地盤の強度を示すN値の推定値も算出できる。

ところが、防衛省はB27地点の強度結果を無視しつつの言い分だ。

「信頼度が小さい」と七百五十センチも離れた土質もバラバラだった。

では、なぜ防衛省はB27地点のボーリング調査をしなかったのか。当然、国会でも野党から質問が相次いでいる。

防衛省が地盤強度の判断材料としたのは、九十センチよりも浅い海面下六十八センチの三地点(S3、S20、B58)でのボーリング調査。別の地点での調査結果をもって最深部の地盤も「非常に固い」と判定した

のは、「土の層が同じだから」との理由だ。

防衛省によると、この三地点は、ボーリング調査を用いて室内試験した結果、「非常に固い粘土層」と確認されたという。

この「同じ土層」という説明にも疑いの目が向けられている。

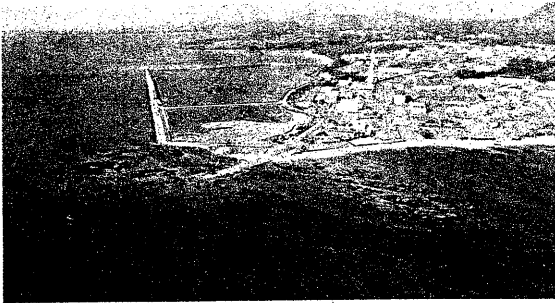
■追加調査せず

「軟弱地盤を疑わせる数値が出たのだから、最悪の事態に備え、細かくボーリングして慎重に判断すべきだ」。軟弱地盤の存在を暴いた元土木技師の北上田毅さんは、B27地点の追加調査の必要性を訴える。

B27地点が、埋め立て区域を仕切る巨大な護岸の真下に位置するからだ。護岸一基の重さは最大六千四百ト。仮にN値が示すように軟弱地盤だったら、「供用後二十二年間で四十センチ」と防衛省の予測を超えて地盤沈下する恐れがある。

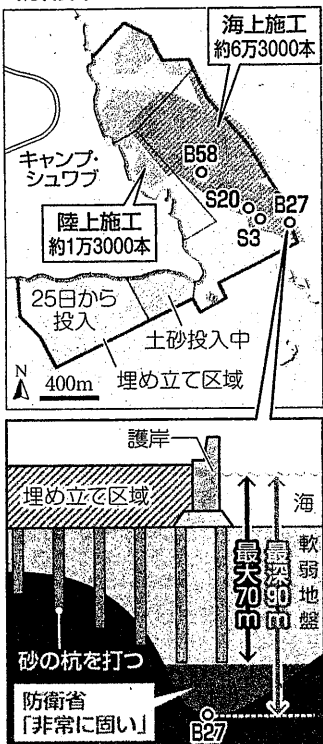
しかし、防衛省は「七十センチより深い地盤の強度は周辺の三地点の調査で十分評価できる」として、さらなる調査は不要とする。

地盤改良を検討した防衛省の報告書によると、現有する作業船の能力から地盤改良は七十センチまでが限界。そこに、北上田さんは防衛省の意図をかき取り、「七十センチまでしか改良できないから、七十センチまで改良すれば大丈夫」という結論に導くとして、調査結果をこじつけているのでは、と不信を募らせる。



埋め立て工事が進む沖縄県名護市の辺野古沿岸部。東側には軟弱地盤が存在する(2月14日、ドローンから)

辺野古新基地建設で防衛省が計画する地盤改良



菅氏「ある意味 虚偽ではない」地盤報告で釈明

菅義偉官房長官は27日の参院予算委員会で、名護市辺野古の新基地建設に関し、埋め立て予定地に軟弱地盤があると報告を受けながら、その後の記者会見で「承知していない」と答えた経緯について「当事者である沖縄県に説

明する前であり、公に答えることは適当でないという認識だ」と釈明した。

国民民主党会派の森裕子氏(自由党)への答弁。

菅氏は26日の参院予算委で、地盤改良工事が必要との報告を1月18日に受

けたと明らかにした。報告から3日後の記者会見では、軟弱地盤の存在と設計変更について問われた際「私は承知していない」と答えていた。菅氏は27日の予算委で、記者会見では最初に「コメントは控えたい」としたことなどに触れ「ある意味で虚偽ではない」と話した。森氏は「ある意味も何も、虚偽ではないか」と批判した。(妹尾聡太)